

# 比嘉世界王者

## 県出身25年ぶり

### WBCフライ級エルナンデスを6回TKO

世界ボクシング評議会(WBC)フライ級タイトルマッチは20日夜、東京の有明コロシアムで行い、同級1位の比嘉大吾(21)と白井・具志堅スपोर्टジム、宮古工高出、浦添市出身の宮古・前日の計量で制限体重を超過して王座を剥奪された「前王者」のファン・エルナンデス(30)とメキシコを6回2分58秒、TKOで倒し、新王座に就いた。県出身の正規王者としては平仲信明氏(53)以来25年ぶり、暫定王者だった江藤光喜(29)と現役を合わせる9人目の世界チャンピオン誕生となった。



6回、左ボディーを決め、ダウンを奪う比嘉大吾(左)＝20日、東京・有明コロシアム

比嘉は戦績を13戦13勝(13KO)と伸ばし、日本人初のパーフェクトレコード(全戦KO勝利)による世界王者となった。所属ジム会長の具志堅用高氏(61)が1976年に世界ボクシング協会(WBA)ジュニアフライ級に勝利し、県出身初の世界王座に就いた21歳と同じ年齢でタイトル獲得となった。フェルナンデスの戦績は37戦34勝(25KO)3敗。

比嘉は1回から、果敢に前へ出て、足を使うエルナンデスを追い掛けるようにパンチを繰り返した。2回に、左フックを合わせ、最初のダウンを奪った。比嘉は5回、2度目のダウンを奪い、6回には4度ダウンさせ、2分58秒、勝負を決めた。

ひが・だいで 浦添市宮城出身。仲西中卒業後、宮古工業高へ進学。3年で東京国体少年フライ級8強。2014年6月に18歳でプロデビュー。15年7月には敵地タイでコンファアー・CPフレッシュマートを倒してWBCフライ級ユース王者。その後、同王座を2度防衛。16年7月、東洋太平洋OPBFフライ級タイトルマッチでアーデン・ディアレ(フィリピン)を制して同級王座に。同年11月と17年2月に王座を防衛した。16年12月に日本プロスポーツ大賞新人賞、17年2月に16年ボクシングプロ優秀選手新鋭賞を受賞。